

まつだいら 松平 定行 (1587~1668)

松山松平家初代藩主。三河国宝飯郡西郡(現、愛知県蒲郡市)出身。伊勢国(現、三重県東部)桑名藩主を経て、寛永12(1635)年、松山藩主となる。以来、道後温泉の施設の充実や、松山城天守閣の改修、筍や茶の栽培などの殖産興業政策を進め、松山藩の基礎を作った。隠居後、温泉郡東野村(現、松山市)に別荘を建設し、千宗庵に命じて数寄屋と庭園を作らせ、東野御殿と呼んだ。

略歴

天正15(1587)年	尾張国知多郡英比郷(現、愛知県知多郡阿久比町)の阿古居城を本拠とする松平(久松)家の一族、松平定勝の次男として、三河国宝飯郡西郡に生まれる。
慶長12(1607)年閏4月	定勝から遠江国(現、静岡県西部)掛川3万石の領地を譲られ掛川藩主となる。
元和3(1617)年7月	定勝が伊勢国桑名11万石の藩主となり、それに伴い桑名に移る。
寛永元(1624)年6月5日	定勝の没後、領地を相続し桑名藩主となる。
寛永12(1635)年7月28日	松山藩15万石の藩主となる。
寛永14(1637)年11月	鳥原の乱が起こり、松山藩からも幕府軍として軍勢を送る。
寛永15(1638)年	道後温泉の整備を行う。
寛永16(1639)年	松山城天守閣の五層から三層への改築に着手。同19年に完成
正保元(1644)年1月	長崎警備を命じられ長崎に屋敷を与えられる。
正保4(1647)年7月16日	6月に長崎にポルトガル船が来航したことから、警戒のため長崎に軍勢を率いて入る。8月には何事もなく帰国の途に着く。
万治元(1658)年2月27日	家督を嫡子・定頼に譲って隠居。江戸より帰国し、隠居所として東野御殿の建設にかかる。3年後に完成
寛文8(1668)年10月19日	82歳で永眠。墓所は松山市祝谷東町の常信寺

〈関連図書〉

- ・景浦勉『松山城史』伊予史料集成刊行会 1939年
 - ・『松山城』松山市観光協会 1970年
 - ・愛媛県史編さん委員会『愛媛県史 近世上』愛媛県 1986年
 - ・愛媛子どものための伝記刊行会『愛媛子どものための伝記 第15巻 伊達宗城・久松松平家の人々・土居清良』愛媛県教育会 1987年
 - ・愛媛県史編さん委員会『愛媛県史 人物』愛媛県 1989年
 - ・井上宗和『四国の城と城下町』愛媛新聞社 1994年
 - ・景浦勉『松山藩政史の研究』関奉仕財団 1994年
- (ゆかりのある場所)…(P276, 49)